

1920 年代スペインにおける女性の断髪化現象

—cómodo の獲得—

法政大学非常勤講師 磯山久美子

本研究は、1920 年代にスペインにおける女性の断髪化現象の普及要因を、「新しい女性」(la mujer nueva, la mujer moderna)の身体感覚にもとづく身体表現という観点から考察したものである。

断髪は、「新しい女性」を表象するものとみなされてスペイン社会に論議を呼んだ。それは髪型がジェンダー規範の対象として20年代もはたらいており、女性の身体は、受動的、従順であるべきだと女子教育で指導され、また現象が広がったプリモ・デ・リベラ独裁政権下では「産む身体」として規定されていたからである。断髪が広がった理由を女性主体の側から考察した場合、第一に「フェミニズムを表現する身体表現」として断髪に重要な意味を見いだしたフェミニストたちの存在がある。第二に女性たちによって“cómodo”と表現された身体感覚が挙げられる。“cómodo”は断髪にした女性たちから発せられた、自己の身体を肯定する感覚である。新しいモードやスポーツ、家庭外労働など

女性の身体観の変容がもたらされていくさまざまな事象のなかで、断髪を選択した女性たちは、自己の身体を肯定する“cómodo”という身体感覚を「獲得」し、自己にとってより“cómodo”な状況をもとめていった。断髪にしていた多くの女性たちは、“cómodo”という身体感覚を「獲得」することで、いわば「感覚する主体」として自己の主体を形成していったのである。